

# 反核平和ニュース

2020.9.30

長崎民医連反核平和委員会

## 核兵器禁止条約批准国が 45 か国に・発効まであと 5 か国



9月21日、マルタが核兵器禁止条約を批准し、批准国は45か国になりました。あと5か国が批准すれば、50か国となり、その後90日で発効です。21日は、国連が定めた「国際平和デー」、そしてマルタが独立した日でもあります。これまでも核兵器禁止条約は、何らかの記念日に批准されてきたケースが多く、マルタもそのひとつでした。今後も、10月24日国連デー、24日から30日は国連軍縮週間です。この間に批准する国もあるかもしれません。ゴールが見えてきました。

### 長崎県は目標 50 万筆を達成！！

そして、9月9日、長崎では県で目標の50万筆を達成しました。最終盤で、自治体、教会、そして個人からたくさん寄せられました。5月末にカウントアップを開始。毎週水曜日に更新してきました。カウントアップを始めた時点では480,823筆だったので、4カ月で2万筆が寄せられたこととなります。最終盤でのこの数字は驚異的で、全国を励ます結果となりました。ご協力いただいたすべてのみなさんに感謝です。ありがとうございました！！



### 長崎民医連の夏の取り組み戦争体験聞き取り(グループホーム星取より)

前回、写真という形ではご紹介できなかったグループホーム星取の取り組みを紹介します。8月9日はスタッフみんなでグループホームの利用者さま4名に戦争体験、被爆体験の聞き取りを行いました。

87歳女性の方の体験をご紹介します。

当時、勝山町に在住、活水中学1年か2年。空襲警報が鳴るたびに自宅へ戻らなければならなかった。原爆の時も警報で自宅へ戻っていた。アメリカ兵は空からビラをまくこともあったが、毒がついていると思い拾わなかった。「原爆を落とす」などの内容が書かれてあったと思う。

原爆が落ちた瞬間は、ピカッと光り、きのご雲が見えて、太陽や周りの空が暗くなった。家のガラスが割れて、自分も家の中で飛ばされたような記憶があるが、よくわからない。けがはしたが、やけどの記憶はない。皆、原爆を原爆とはわからず、すぐ近くに爆弾が落ちたと思い込んでいた。自分の父親は薬屋だったので、勝山小学校が避難先になっていて、やけどした人の手当てをするためにそこに行っていた。家族は、戸石のほうに知り合いがおり、そこを借りて住んでいた。

原爆が落ちてしばらくすると、アメリカ兵が長崎のようすをみるために、やってきて家の中に靴のまま入り込み、あがってきた。危害を加えることはなかったが、とても怖かったことを覚えている。

話の最後に「一番訴えたいことは？」と尋ねると「二度と戦争はしないこと！」と悲痛な面持ちで訴えられたそうです。聞き取りをした職員の感想から・・・

今回、聞き取りをさせていただいた方は皆さま認知症を患っておられるので、昔の記憶に乏しく、十分はできなかったが、お一人、詳しく聞くことができたのは貴重だったと思う。普段から戦争のことや、政治への不満を口にしておられたが、戦争体験は初めてで、この機会を設け、知ることができたのは良かった。「戦争はしないこと」と訴えられた言葉が、体験者ならではの重い言葉だと感じた。

当たり前ですが、戦争体験者は年々減っています。お話を聞くことが出来たら、また聞くことができそうなときは県連事務局へもご紹介ください。よろしくお願いします。

ヒバクシャ国際署名・長崎民医連の到達は **22,923 筆**

———あともう少しで 23,000 筆でした。4年間のご協力ありがとうございました。———